

さわかせ

sanwa chiku-syakyo

編集:三和地区社協地域づくり部
発行責任者:三和地区社会福祉協議会
会長 泉水 房治
事務局:三和保健福祉センター内
(サンハート内)
電話:0436-37-7100

9月10月・累積参加人員900名突破!

地区	町会名	9月度 参加人員	10月度 参加人員
市西地区	光風台地区	45	46
	有木	44	24
	中谷原	41	21
	福増	20	18
	武士	19	12
養老地区	小野山	59	51
	松崎	23	20
	磯ヶ谷	15	8
	山田	22	43
	二日市場	29	29
海上地区	樫挟	14	10
	川在	25	27
	新巻	26	31
	宮原	30	32
	新生	30	26
浅井小向	分目	18	19
	浅井小向	33	31
	安須	15	18
高坂	高坂	15	15
	Total人員	478	435

※光風台は過次開催のため月次は平均値を示す。



<光風台地区/光風台ふれあいサロン>



<中谷原町会/通いの場>



<武士町会/通いの場>



<松崎町会/通いの場>



<磯ヶ谷町会/ふれあいの場新地>



<山田町会/シルバー会>



<新巻町会/通いの場>

広がる地域福祉の輪

1地区+18町会

9月よりスタートした『通いの場』は、地区社協傘下各町会役員の取り組みにより、順調な歩みを進め、10月段階での累積参加者数は900名を超えるすべし。各町会が創意工夫を凝らし、地域住民への福祉活動に新たなページを加えました。

市西小域ネット・市西小と連携

認知症サポーター養成講座開く



養成講座修了者のあかしロボット(ストラップ)が贈られた



＝ 認知症は脳細胞の死が引き起こす病気 ＝
深まる理解・支え合う大切さ



<記憶のバスケットで脳のしくみを学ぶ>

10月18日、市西小学校区小域福祉ネットワークは、市西小学校と連携して第1回認知症サポーター養成講座を開催しました。今回、同小4年生23名が対象でしたが、この年頃の子供達は、ちょうど祖父祖母の孫に該当する年代であり、事実23名中、約7割が祖父母と同居の環境にあります。身近に高齢者と接する機会が多い子供達の中で、老人の異変にいち早く気付いてもらうこと、そして異変の原因は、脳の障害によって引き起こされること、適切な対応が必要になることなど、認知症への正しい理解と気遣いの大切さを学ぶひと時となりました。

通信員募集

あなたも地域ニュースを発信しませんか!

さわかせ編集委員会では地域ニュースの発信者を求めています。(目標:各町会1名程度・応募自由)

応募先→三和保健福祉センター ☎37-7100まで連絡願います。



<川在町会/八日講>



<二日市場町会/なの花会>



<樫挟町会/通いの場>



<安須町会/AZUどんぐり会>



<浅井・小向町会/通いの場>



<新生町会/つばさ会>



<宮原町会/はつらつ会>

回顧録



1964年、私は警視庁に入庁した。その2年後、警視庁機動隊への辞令を受け、ここで訓練地獄を体験する。

60年安保闘争を経て、治安維持が喫緊の課題として浮上し、これを担う体制(機動隊)強化が求められた。その渦中に身を置くことになった私だが、入隊1年後には

谷 光彦 シリーズ ②

隊と正面からぶつかる形となり、現場は正に修羅場と化した。当時、機動隊には大盾は装備されておらず、車両によるバリケードを築き、放水車を配する布陣で隊員が文字通り盾の役割りを担った。これに対し、相手は角材や鉄パイプで武装。投石に加え、ガソリンで放火するなど暴力はエスカレートしていった。

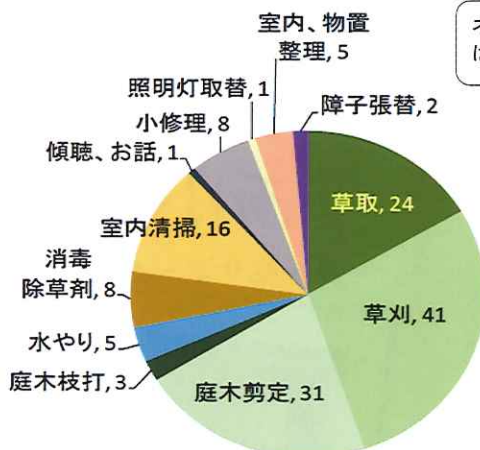
取分け、空港入り口となる穴守橋・稲荷橋・弁天橋での攻



今年こそ整然と威容を誇る機ケ谷町会の八幡神社だが、平成9年に火災による焼失に見舞われた。現在の社屋は平成14年に再建されたものの、その間、伝統的な例祭は見送られてきた。神社再建後、ほどなく神輿も新調され、平成18年より神輿渡御が復活した。

本年は10月13日の神社例祭に併せて子ども神輿渡御が賑やか開催された。車載の山車から響くお囃子を先頭に、神輿を担ぐ子ども達から元気いっぱい『ワシヨイ・ワシヨイ』の声。氏子総一取材・金杉通信員

地区社協(三和地区社会福祉協議会)では、本年度より、6部会制での組織運営に取り組んでいます。それぞれの部会が、各々何を目標に、どのような活動を進めているのか? また、その課題は何なのかについて、各部の企画委員から報告を頂きました。



【グラフ値は依頼内容と実施件数を示す】



たすけあい支援部は支援会員83名。昨年度は利用会員119名の皆様から145件の作業依頼を受け、高齢者の要望に応える活動を進めてまいりました。

『三和の住んでよかった』を目標に たすけあい支援部 二田口 三津子

各部が目指す 取り組みとは

動を進めてまいりました。(内容はグラフを参照下さい) 有償でのサービスではあります。利用会員の皆様からは、たくさん感謝の声を頂いています。 5452・8333 までご連絡下さい。

地域共助の包括的仕組みを目指す

生活支援部 小出 満寿男

生活支援部の課題は地域における共助の体制を如何に構築していくかであり、これに絡めて地域の包括的なシステムをどう作りあげていくかが目標です。このため、地域ニーズを的確に捉える勉強会を9月までに3回実施してまいりました。今後、下表のスケジュールを踏まえ、地域ユールを踏まえ、地域にとって必要な福祉体制の立ち上げに向け、更なる検討を積み上げてまいります。

	4月～6月	7月～9月	10月～11月	12月～
環境づくり支援				
概要説明 打ち合わせ				
勉強会実施				
設置準備				
設置				
推進				

一斉スタートを切った通いの場

地域づくり部 渡邊 正

地域づくり部では、①通いの場事業の推進 ②サロン事業の継承 ③福祉バザーの取組み ④広報事業の一新、を柱とした事業展開に臨んでいます。

①通いの場事業の推進 ②サロン事業の継承 ③福祉バザーの取組み ④広報事業の一新、を柱とした事業展開に臨んでいます。

災害支援の体験学習を企画

安心・安全部 高山 弘

今年ほど「多様な災害に襲われた年はない」と、誰もが頷くことなのでしょう。いざという時に備え、各ご家庭でも自助努力で様々な対策に取り組まれていることと、思いがた各町会役員の皆様の御尽力に改めて御礼申し上げます。

一方、大規模災害で

ローカルフラッシュ 焼失を乗り越え 神輿渡御の復活



今年こそ整然と威容を誇る機ケ谷町会の八幡神社だが、平成9年に火災による焼失に見舞われた。現在の社屋は平成14年に再建されたものの、その間、伝統的な例祭は見送られてきた。神社再建後、ほどなく神輿も新調され、平成18年より神輿渡御が復活した。

本年は10月13日の神社例祭に併せて子ども神輿渡御が賑やか開催された。車載の山車から響くお囃子を先頭に、神輿を担ぐ子ども達から元気いっぱい『ワシヨイ・ワシヨイ』の声。氏子総一取材・金杉通信員